

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集: FXニューズレター

執筆担当: 斎藤登美夫



◆◆◆ No.0171 ◆◆◆

12/04/11

## 【 スポーツと景気の相関性 】

スポーツと景気の相関性が指摘されることは決して少なくない。おそらく誰でも一度は聞いたことのある話でいえば、「プロ野球の巨人が優勝した年は景気が良い」ーというものではないだろうか。そんなスポーツと景気の相関性についての話はたくさんあるが、そのなかに「日本人選手が世界的なスポーツイベントで好成績を残すと国内景気は何故か冴えない」とする話がある。おりしも、今年は7月27日からロンドンで夏季オリンピックが開催される。日本人選手の活躍を期待したいところだが、前述した相関性の話はやや気掛かりだ。

### ◎今年オリンピックイヤー、日本人選手の活躍を期待したいが……

「日本人スポーツ選手の活躍」ー。普通に考えれば日本人に勇気と力を与える心理的に好ましい要因と思われるだけでなく、関連グッズの売り上げや視聴するテレビをはじめとする家電などの売り上げ増に寄与する公算が大きいように考えられる。

先に挙げた「プロ野球の巨人が優勝した年は景気が良い」はまさにその典型であり、記念セールなどにより大きな経済効果が挙げられるのかも知れない。

しかし、あるエコノミストが過去10年以上に遡り、オリンピックやサッカー・ワールドカップなど世界的なスポーツイベントにおける日本人選手の活躍と、日本の景気についての関係を調べたところ、何故か「日本がスポーツで頑張ると国内景気は下降する」という傾向がうかがえることが判明したと言う。つまり、前述した内容とは相反する結果になったわけだ。

その逐一を記すことはしないが、以下でひとつだけ事例を挙げてみたい。

いまから4年前、前回2008年に実施された北京オリンピックにおいて日本は金メダルが9個、銀が6個、銅10個でトータル25個と過去最高数のメダルを獲得した。水泳の200メートル平泳ぎで大会2連覇を達成した北島康介選手の勇士を覚えている方なども少なくないと思う。そんな2008年の景気動向はというと、米国発のいわゆる「サブプライム問題」がさらに拡大し世界的な「金融危機」となり、日本においても景気悪化が鮮明化した。また、金融市場においても日経平均がバブル崩壊後の最安値を更新しただけでなく1982年以来となる一時7000円割れを達成したほか、ドル/円相場も8月のドル高値110.67円から年末に掛けては87円台までドルが急落しているー。

さて、そうしたなかご存じのように今年7月27日からロンドンで夏季オリンピックが開催される。ここに来て様々な競技で続々と日本代表選手決定のニュースが報じられていることは記憶に新しい。オリンピックに参加する選手たち持っている力を存分に発揮して悔いの無いよう精一杯頑張ってもらいたいが、先にも挙げたような「経験則」がうかがえることはやや気掛かりだ。

実際、国内景気を取り巻く環境を振り返ってみても、為替市場における円高こそ一服しているが株価は依然として低迷しているし、原発が相次ぎ操業停止となるなか原油価格の高騰でエネルギー政策に対する懸念の声も聞かれている。また、東日本大震災の影響があったとはいえ、去年の日本は31年ぶりの貿易赤字に転落したほか、消費増税の実施が確実視されるなか消費者マインドの後退も懸念されている。日本の景気は今後再び悪化する危険性は存外高いようにも思われ、注意を要したい。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニューズレター』までお願い致します。

